

第 6 回 日本臨床検査学教育学会学術大会 抄 録 集

『新時代の飛翔』

— 臨床検査技師教育と研究のネットワーク構築 —



Photo: 朱鷺メッセ

開催日 : 平成23年8月17日(水)~19日(金)
会場 : 新潟大学医学部保健学科
大会長 : 渡邊 正友(新潟医療技術専門学校)
担当校 : 新潟医療技術専門学校
事務局 : 新渡戸文化短期大学

一般社団法人

主催 : 日本臨床検査学教育協議会
後援 : 文部科学省 厚生労働省



Web 経由で行う国家試験の解答集計と採点結果の通知

○本間 ^{ほんま} 達 ^{さとる}, 小山 高敏, 吉田 祥子, 栗原 由利子,
長 雄一郎, 齋藤 良一, 原 央子, 若松 秀俊
(東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)

【はじめに】 臨床検査技師の養成校において, その国家資格試験(以下, 国家試験)は教育の成果を示す試金石の一つであり, 次年度以降の教育方法を修正していく観点から, 結果の分析は欠くことができない. 学生らにとっても資格取得の可否は卒後の進路に多大な影響を及ぼすので, 国家試験後の自己採点により結果を把握することは重要である. しかしながら, 正答を厚生労働省が発表するまでに 1 ヶ月程度の時間があるので, 多くの学校では独自の正答例を作成して自己採点の根拠とする. 東京医科歯科大学では 2009 年に実施された試験より, Web 経由で学生の解答を集計し, Microsoft 社製表計算ソフト「Excel」を用いて自動採点・分析後, 可否にかかわる結果を学生に通知してきた. この運用の結果, 特に合格が不確実と考えられる学生から採点の詳細な内容を求められ, 連絡が繁雑になる場合があった. そこで, 学生が科目ごとの得点及び合計点を自分自身で確認できるようにシステムを改良し, 2011 年の国家試験後に運用したのでその成果について報告する.

【方法】 学生が Web より入力した解答を, サーバ上で動作する CGI(Common Gateway Interface)で作成したシステムが自動的に CSV 形式で集計する. 教員が作成した国家試験の正答例に基づいて Excel で採点・集計・分析を行う. 科目ごとの得点状況とその合計点をデータベースに登録後, あらかじめ通知した方法でその結果を閲覧するよう, 学生にメールで連絡する. 検討後に正答例を修正した場合はデータベースを修正し同様に連絡する. 科目ごとの得点分布, 問題ごとの正答率, 予想合格率などを分析し, 当該年度の教育内容の反省と次年度の教育方法を検討するための資料を Excel で自動的に作成する.

【結果】 従来は, 合計点が 125 点以上の学生を「合格確実」, 117 点以下の学生を「合格不可能」, これ以外を「合格不確実」と判定し, それぞれのグループごとに一括してその判定内容のみを通知したが, 2011 年度は「採点完了」のみを通知し, 学生が自分自身でシステムにアクセスして結果を確認し, 可否の可能性の判断を学生自身に委ねた. また, 採点結果に納得できない学生がいる場合を考慮して, 結果と並べて採点に用いた正答例を表示するシステムとした. これにより学生から問い合わせの連絡が減少した. 一方, 学生のシステムへのアクセスは増加し, 特に「合格不確実」領域の学生は教員からの連絡によらず, 1 日に複数のアクセスを行っていることが確認できた.

【考察】 本システムはサーバ上のプログラムで全て処理するのではなく, 採点と統計処理を Excel で行うように設定した. これは分析した結果のグラフ描画が CGI では困難であることを考慮したからである. なお, 学籍番号, 国家試験受験番号, 学生氏名が完全に一致しない限り, 採点結果を閲覧することができないように設定した. これは学生の個人情報保護に配慮したものである. 一方, 学外にある同一 IP からの連続したアクセスが, 数日連続して記録されていたことから, 自宅にインターネット環境をもつ友人に連日のアクセスを依頼したことが確認された. この事から国家試験の成績について他人に知られることを気にしない学生がおり, 入力の手間を増加するパスワード設定は不要と考えた.